

〔参加者自己紹介〕

仲田さん：元名南子ども家。研究センター常任理事。

向井さん：コープあいち参与。研究センター常任理事。

松浦さん：コープあいち組合員。前回座談会発表。

中島さん：昨年まで研究センターとコープみえ理事。前回座談会発表。すぎママの会長。

前田さん：名古屋大学研究員。専門分野は地理学、特にNPO、ボランティア団体について。これまで

名古屋では防災について、それ以前は多摩ニータウンでのNPOのネットワークづくりや

組織のつながり方について調査。被災者支援センターで向井さんにつながる。住まいは本山

鈴木さん：研究センター事務局

井貝さん：研究センター事務局。岐阜県の瑞浪で中高年の居場所づくり活動。

津坂さん：労働者協同組合。ワーカーズコープセンター事業団、協同労働の協同組合。

内藤さん：池内福祉会臨時職員。自分の家が空いた。地域で。

豊田さん：NPO法人仕事工房ボロボロ副理事長。

二〇一二年八月三〇日

地域福祉を支える市民協同パネル・世話人会

第一回座談会の振り返り

「地縁組織から」

第二回座談会

「志縁組織から」

縁 社縁、志縁・・・有縁社会があり、その対極に無縁社会がある。・・・新しい言葉として、血縁の次に、結縁（ケツエン）をプラスしたい。NHKの「無縁社会」が文庫本化された。そこで2つ付け加えられている。高齢者の孤独死の問題と、個が中心となっていく社会の中でそれを結び付けていくという視点。という事で結縁を付け加えたい。

向井さん：一覽表をもとに先回の報告について振り返ってみる。補足してみる。

地域の住民として、広げていくテーマ、自分自身の関わりについて。

松浦さん：今進みだしていることについて。防災安心マップ作り、地域3あいでは、独自のことができていないので、この9月から核になる女性4人でやっていこうという事になった。本庄会館に防災倉庫があるが役に立たないものも入っている。「本庄防災プロジェクト」と命名し動き始めている。区長さんは1年任期、その後は3あい事業に参加していく流れを作っている。区長になると姿勢が変わってくる。区のためにという意識になる。

中島さん：再スタート。地域は、三重県の3市7町まちは人口が少なく、土地は広い。障がいを持つた子育て、親の会の存在は必要だという事がわかってきた。子どもの医療体制も含めお母さんの声集めて発信していく力をどう作るか。お母さんたちは尻込みしがち。集会ができる場所を今改装中（友達が提供してくれる）。電気代と水道代を確保すればあとは助成をどう受けられるか検討中。アシストさん

第一回座談会の振り返り

「地縁組織から」

仲田さん：前回の報告は文書で。整理した資料（椋木）

地縁組織からの報告（幸松さん、松浦さん、小池田さん、中島さん）から、それぞれ目標がある。（資料参照）中島さんの報告・・・地域での療育をどのように作っていくか、マルチステークホルダー（利害関係者）を中心に。

地域に住んでいる立場からの報告

先回の報告の内容（一覽表参照）

地縁組織の横にもう一つ、志縁組織をつけていくといいと思う。地縁組織も志縁組織でも地域で生活している人は同じ、生活実態をどの視点で見えるかの違い。これらの相互の関連性を明らかにしていくためにこの表に補足していくことが有効

課題検討のために付け加えたいこととして・・・地縁組織と志縁組織の相違と相補について（血縁、地

い事業がうまくいっているところもある。あえて地域協議会にする必要がないところも。地域協議会は縛りがなく自由にやれるが予算のこともある。

向井さん：本庄はもととあるものをうまくやっていくために3あい事業をやっている。

旧地域の場合、松浦さんは旧住民？

松浦さん：旧住民で、1人は新で、あとは旧住民。同じ年代。

向井さん：ほかの活動も生協活動もやっているがそれらとの関連は？

松浦さん：生協活動の経験は生かせていると思う。

中島さん：地域の方は入っていけない。自分自身は努力している。絶えず行政が力になってくれている。まずは自分自身がやること、それを周りに広げていく。

すぎママは、療育がやっとスタートした。

向井さん：行政との相談、個人で・・・

中島さん：個人個人の相談より、会として相談に乗ってもらう方が取り上げてもらえる。

うまく出しあげていくこと。私がいえば会としての声として取り上げてもらえる。地域ときちんとつなげること。

向井さん：親の会はそれぞれの地域で生活することを・・・

と連携して。子ども就労のことも。いろいろ期待している最中。

向井さん：個人の場所が提供された。助成金の申請・・・

中島さん：まずはお母さん自身何がしたいのかを引き出すこと、どう引き出すかが最重要。

向井さん：深めるための質問は？前回参加されてない人も。

本庄3あい事業からのふりかえりと、4人のお母さんの防災プロジェクトへの動き。これらの着眼点
は？ 地域のお母さんが、子ども会活動を解散してしまっただ世代のお母さんたちがもう一度地域の課題
に向き合つてより積極的に活動しようとしている。（活動を再生、より活動的に、住民の立場で）

3あい事業でつながったことの意味、さらに自発的に防災について取り組もうとしている。つながった
ことの意味を見直す。歴史（時代の変化）、社会状況の変化と組織変化のなかで人と人がもう一度つな
がる。（再編）それぞれの地域を日本の中ではどういう地域としてみるか。名張、幸松さんたちのビジ
ョンづくり。

仲田さん：資料表参照。中島さん、個別的目的を持ったお母さんたちが、地域とどういう関連性があるか。障がいを持った子どものお母さん、地域との関係がいつも出てくる。中島さんはどういっふうに捉えているか。7P下（小木曾先生）地方分権制度・・・現実制度のために・・・3あい事業は・・・？
松浦さん：市は2年で変えていきたいといっている。モデルケースを作って。私は手を挙げた。3あ

がその後きた。こうしたことから加齢すると家族とのつながりや地域のつながりは重要と実感。想像もできる。超高齢社会になってきている。地域のつながりは生命維持装置だという印象をもっている。

○向井さん：地域で生活する場合、地域のフィールドがどういう関係性で保たれているか。

地縁組織が100パーセントならばいいが。

前田さん：地縁と支援組織、トップが動くこと。組織として地縁組織の役割は何か？

地縁組織がやるべきこと、やらなくてもいいこと・・・

松浦さん：各張の場合は道路まで・・・。線引きは・・・。「3あい」の場合の趣旨。声にすぐ動い
てもらえる。

井貝さん：土木、うちの地域では土木も草刈もやる。田んぼがあるところ。道具もある。

新住民と旧住民の意識の差。行政との関係。

内藤さん：生協に関わって来て、10年たつて五十五歳になって、みんなは家にいる、介護。おばあちゃんが増えてきている。子育てしないままどうするんだろう。地域の中ではじいちゃんがおんぶしている。お母さんは仕事している。近くの地域が見えなかったが、ひとつひとつ見えてくる。「ミは市がかたつけてくれる。一軒家でもだれが住んでいるかわからない。キーパーソンは必ずいる。自分たちは何ができるんだろう。話すこと。地域によって全部違う。夫は退職したら何をやるんだろう。同窓会を

中島さん：拠点の場も地域とのつながりがある。自分の地域で、自分たちでつながること。
向井さん：ほかのお母さんたちや、他の地域住民にも広げていくには？

中島さん：地域住民に情報を開示する。訴えていく。自分の経験を基にしてこれからの可能性も声を出していく。(アシスト：発達支援センター、自治体が設ける)

個々の問題を地域の問題化へ。

仲田さん：レジュメ(小木曾先生)各々の問題は個別的。プライベート(個別問題)なことと公益性(社会問題)との関係性。いつも両方の視点を持つことが大事。

この表の中で、協同組合の果たすべき役割はあるので、その視点を盛り込んだ整理が必要。

お二人も生協の活動があつてこそ。

松浦さん：今は生協活動の方が多いが、いずれ地域活動が多くなると思う。女性だけになっている(生協は特に)いずれはみんなでやれる。生協活動は車で出かけているが、いずれは地域で。

向井さん：質問は？

前田さん：小牧市では自治会の加入率は？ 松浦さん：ほとんど。

津坂さん：今小牧で活動している。この会館では女性が多いが、女性と男性が一体で対等に。歩いて行ける距離での活動になってほしい。お風呂で倒れ救急車、家族と連絡取れず職員が自宅を訪問、息子

が・・・子ども会でも引きこもりの子はなかなか立ち入れない。

地域は厳しい環境。その中でまずは居場所の提供をしている。岐阜市周辺からも来ている。

向井さん：地域では相談しにくい？個別の？

豊田さん：親は地域で孤立している。家族会をしているがだんだん参加が増えてきている。孤立しない、地域では難しい。まだ時間がかかる。

向井さん：個別的だが解決しなければいけない問題、草取りも田んぼを持っている人にはあたり前だが、自分にとっての切実さがあっても行政には受け皿がない場合は個別的な相談はストップ。社会福祉の場合は制度上しっかりと書いていけば解決していくが。

仲田さん：福祉パネルだが、福祉の理解の仕方がみんな違う。先回、三重のかたが社会福祉の認識について・・・。生協では、福祉について広い意味で使っている。社会問題でも人間の尊厳について関わる問題があるが、協同組合の場合は広い意味で福祉といっている。整理していくことが必要。豊田さんのところの問題は、根幹の問題では尊厳の問題も関わっている。中島さんのところの問題は、当事者支援について・・・普遍化していく努力が必要。たまたま、篤志家がいて成り立つという事ではなく、普遍化が・・・福祉でなく社会福祉。

福祉パネルの課題として福祉をどうとらえるか。人間の尊厳に関わる領域として。協同組合福祉・・・。

開く。

前田さん：地縁の中で二人はやっている。地縁組織というよりもちょっと話したいという人が喋れる場がほしい。従来の枠組みの中でやるのではなく、地縁の中で志縁のような・・・。緑区での事例では、町内会ではなく町内なだけで制度ではなく集まれる人が集まってやるといってしまう・・・。組織となると重い・・・。

向井さん：地域の日常生活問題をどのように捉えて自分たちでやるといってしまう(名張のような)構成でやるといってしまう・・・。

地域福祉という言葉の中にどういってしまうような現実を見るか、支える、関係を見つめる・・・。地域福祉への関与しかたが話題になっている。解決できないもの・・・。市民といってしまうとどこに着目している・・・。

協同組合って役に立つの？

一覧表では目標から入っているが、地域環境・・・住民が抱えている課題をどのように解決しようとしているかという項目も加えたらわかりやすい。

組織として支えていくのか、自分たちでやっていくのか・・・

豊田さん：自治会は大きいいろいろなものを削っている段階で、行事にはなるべく参加しなくてもいいような・・・。引きこもりは地域ではなかなか見えてこない。子育てでは子ども会のつながりがある

第二回座談会

「志縁組織から」

●史文珍（シブンシン）（……）（午後からの参加）

愛知工業大学大学院 経営学 地域包括ケアシステム研究――

後前中は欠席させていただき申し訳ございません。今日は貴重な場に出席させていただきありがとうございます。2008年に日本へ来ました。もう5年目になりました。家内はオーウ。

●向井さん：南京から。名古屋市とは姉妹提携都市。南京市とはアジア・ポフンティア・ネットワークで南京市の虐殺記念館や、南京市の总工会との交流があって、協同組合つくりをやろうというところで市民レベルの交流があります。

座談会の趣旨は、4人のかたに報告をしていただきますが、お互いのことについて質問をしたり、意見交換

お母さんたちの共通の課題でつながる。社会の課題として、中島さんがそういう場を作ろうとしている。地域そのものの変化。

向井さん：新しい問題は・・・公的な問題。

仲田さん：孤立化しないような環境があれば、生活困難者など・・・話合いができれば。

向井さん：志縁組織でも地縁組織として解決できるようなキーパーソンやコーディネータがいれば解決につながるっていく。

内藤さん：小木曽先生に自分たちがプラットホームと言われた。公的なことをやっているところはたくさんあるが・・・。情報をいかに整理するか。ここもそうだし、家のほうも。

向井さん：キーパーソン、コーディネータがいてプラットホームとして機能している。

今日は新しい話ができた。地域のあり様、地域課題を解決する。本来の地縁組織については議論できなかったが、表で完成させていく。

伊藤さん：コープぎふのくらしたすけ合い。研究センターの理事。

福祉の見えるところがみんな違うという事が印象的。

小木曽先生からのメッセージ。市民協同という部分・・・意味、福祉は多義にわたる、最初から変化してきた。キーパーソンの役割について話し合いたい。

は存在していなくて、家族会だけやっています。相談活動です。その中で出てきたのがニート・ひきこもり。要は義務教育から出た子たちがこへ行っているんだろう、行先はあるんだらうかというところ。居場所を求めているんじゃないかというところ。なんかかしくなくてはいけないというところで作ったのが仕事上層ボロ。2007年に作りました。私はそこから関わりをもっています。たまたま事務所が隣りへきたので。

初めは相談活動と家族会を持ったんですが、あけてみたらびっくりで、ニート・引きこもりの相談者が来始めた。年齢は四十代の人で、自分と同世代、驚きだった。本人ではなくてその親が、だから七十歳前後。親が、100家族くらい揃いました。本当に暗い感じで……。この子たちは何をしたら立ち直れるんやろうという相談で、自己紹介をやっています。ただで本心に暗い感じ、こころがこころから始まった。2007年から5年くらいが経ちますけれど、子どもはまだ一度も見ただけがないんです。ただ親は変わってきます。すいぶん明るくなってきました。自分をあからさまりに、自分のことがどんなにしゃべれるようになったら新しい世界が広がります。自分と他人との関係にならなくていい。月1回のことなんですけれど、そこに来るこころがよくなって自分が救われている。何とかなるのかな、とあえす生きていければいいや……。という感じになっている。僕らから言うと、孤立せずに必要とされている(風が吹くと好転する。何かをしてあげるのではなく、当事者が第三者と出会うことで変わっていく)。東大生で引きこもっている人もいます。

をしたりして、志縁組織として地域の福祉課題や課題解決に向けてのアプローチをどう考えるかというテーマセッションをしていただきました。

理解しやすい、わかりやすい形でというのが企画側の趣旨です。一人15分くらい話していただき、そのあとのコーディネートを仲田さんにやっていただきます。

●仲田さん：今日の話手は豊田さん、内藤さん、津坂さん、伊藤佐記子さん、それぞれ15分程度。こちらにいらっしゃる方は問題意識の高い方々なので、途中で割って入っていただいて意見や質問を出していただいて、最終的には座談会形式で事務局がまとめるといいうようになっておりますので……。小木曾先生からコメントが来ておりますが今日は欠席です。考えうるうえでの大切なポイントということで、先生の問題意識があげられています。(メッセージ参照)

●豊田さん：ボボロは、ニート・引きこもりの支援をしている団体。

それぞれきつかけは、不登校の問題で支援をしていた「へんぼすた」で、もう20年やっています。不登校はある程度の支援体制が学校でやられている。ほとんどの不登校はフリースペース。学校みたいなところでフリースクールをやっている、だんだん減ってきている。今は社会的にも一定の認識ができ、メンボスタ

池内福祉会の臨時職員をしています。ここは池内福祉会とのかわりが中心です。おばあさんが死んで私たちが住んでいた家が一軒空いたので、ここを何かにできないかということをや、池内福祉会で夕方の保育の臨時職員をしていた私は「あらもち」の先生に相談しました。「あなたのやりたいことは何？」という事で、そういうえば生協では地域福祉ばかりやっていた。ちょっと生協では子育て広場を作るまで、生協で子育て広場を作るという事を経験させてもらったので、家でこれを始めようという事で始めました。変わったところは名古屋から助成金をいただけと、夫から自立したことです。健康保険証を五十歳から。ちゃんと社会人になりました。それが10年の7月でした。恵方の家子育て広場というこの場所です。

名古屋市にはこういうところがマカ所あるんですがその一つです。家賃を出してもらっているという支援の仕方です。この年は名古屋市はお金が余って、家を改修するのにも200万出してもらった。床暖めて、子どもたちが使いやすい様な環境整備ができました。

いつ来てもいつ帰っても自由な場所を作って、今、平均6組の親子でにぎわっています。今日は最後の水遊びの日です。庭で水遊びをしながら過ごしていると思います。

生協の福祉基金をいただいて子ども椅子を購入しました。地域との関わりはまだまだ保育園が主流ですが、保育園、保健師さん、歯医者さん、地域の子育て支援などの交流会があります。

目指すことは・・・母子力の低下、支援から親支援に変わってきている。それと情報の提供を中心におい

様々な(精神障害、発達障害・・・薬を服用している人)そういう子どもたちが一歩踏み出せる居場所が必要。若者ステーション・・・あるが、ハードルが高くていけない。

全国には100万人いるとも・・・もっている。全国の大会を実施した。社会的引きこもり全国大会開催のために実行委員会を持ったことにより、多くの人たちが参加。500名以上の参加。これで行政の人たちの動きが変わった。国からこういう事業があるから・・・。少しずつ事業が増えていった。

やっていることは2枚目の資料、毎月の実行委員会が若者支援事業・・・きんぽセンターを中心にして、事務局をしてもいい、3つの事業が動けるようになった。

流れとしては、一ノ丁引きこもりになる要因はいろいろあるが、相談をたくさん受けるようになった。湯浅誠さんが提案したワンストップサービスも、寄の添いホットラインも・・・これらはみんな関連し合っている。パーソナルサポートセンター(全国に29箇所)

社会的居場所事業 3つの事業を合わせて・・・。

●内藤さん：私が住んでいるところは名古屋市昭和区、地下鉄の「御器所」と「仲田」と「桜山」の中間地点、閑静な住宅街、多くの学校があり文教地区。公園は大きいのは「吹上」と「川名」にありますが、小さい子だと・・・。

結婚して始めたという人のスキルアップをしていかなければいけないし、働く人の子育て支援のありかたのスキルアップで、これから継続していくにはどうしたらよいかを模索中です。

私自身は、お金をもらっている中で自分はちょっと違って来た。夢が語れなくなったりとか、組織の中にいると、前だったと、時間2時から4時でまじいよねというところまで来た。今はお金のこともめったりにこのこともめったりに、自分でチラシを作ることができなくなったり……。制約されている中で動きがとれなくなっていることは事実ですが、六十になったらまたちょっと変えられるのかな。あと7年は頑張ってみようと思っています。あと7年くらいだったら建て直して、1階を食堂にして、2階を誰でも泊まれる空間にして3階を子育て広場にするといいたく、夢だけは持っています。

・・・パンフ(池内福祉会)の自身を紹介・・・

●仲田さん：池内さんのとこもみんな任意団体、無認可の施設から立ち上がったので50年とかの又パンの努力なんですけど、ほかの任意団体でやっているところにも要望が出来ます。

●津坂さん：支援組織としてのワーカーズコープ、労働者協同組合。労働力を持ち寄って協同する組合というふうなイメージでとらえても結構いいんですが、そういう組織に所属して今働いています。

て今活動しています。ショートステイ「ありんこ」1階に患方の家があって2階の空いたスペースでショートステイができないか。池内福祉会にはありんこ作業所というのがあります。ここには8人の「なまか」がいますが、将来グループホームを目指してお泊りの練習がしたいという事がありまして、普通の家だから2階のスペースで週3回位しています。12年4月に現在の場所に移転しております。「こぼれ」塩付「ハッパ」にはににににあります。障がいのある仲間十代から四十代の子どもたちが、1日4人くらいずつ週5日利用しています。生協の食材を使ったお弁当を提供、週2回。私も生協人なので、生協の食事で提供させてもらって何とか仕事をさせていきたいと思います。

この現状は、障がいのあるなまかたちのお母さんが、先ほども二つで四十代といっていたと同じような世代、私の子どもよりも5歳上のおかあさんたちが将来この子どもたちを置いて死んでいく、自分たちのためにもケアハウスを作りたいという思いがあって、ケアハウスのモデルケース、家族と離れた自立支援及び家族の支援をしています。

これからは支援のスキルアップ。「患方の家」のスタッフは普通のお母さんです。私の近所の周りにいた、生協をやっていた仲間たちだとか。男性が150パーセント収入を稼いでくれた時代、私はですけれど、五十代までは家を出る必要がなかった人たちが、今6人ほど交代で24時間の中に入っています。その人たちが初めてお給料をもらおうということ。関係作りでお金をもらおうということ、仕事をするとどう仕事を始めた。

ても継続しなければいけない。そのためには赤字にならないように、自前の事業所の場合はお互い助け合っ
てやっています。

指定管理、業務管理の場合は期間が終了すると終わります。指定管理が目的ではなく、地域との関係
を豊かにして、自前の事業所作りをやっているところになっています。志を持って集まって労働の
場がないといけないので、労働で協同するというのが根本的な問題はあるんですが、現在の課題としては、二
つにゼンを抱えていて、指定管理あるいは委託事業を実現にしていきたいというふうなところ。

今回、ワーカーズコープは地縁組織なのか、志縁組織なのかという事を考えた。例えばこの事で、空間的
に考えると距離が離れている、ほかに立場や目的というところで自分の中で整理をしようかというふうか……。
パンフの中のチラシ2枚あります。ワーカーズコープってわかりにくいところがあるんですけど、映画がで
きたので見ていただきたい。名古屋上映は未定ですが、10月6日には豊川で「新しい公共とは？」という
場が持たれ上映されますので、足を運んでいただきたい。元消費者庁長官の福島さんが来る。ぜひ出かけて
ほしい。

パンフレットで、全体像について、3つの協同について。

歴史的に言うて委託した事業から始まった。地域との関わりをしつかりとすること。経営理念としては社会
連帯経済。労働者協同組合は、歴史的にみると、初めは地域に小さなところだったが広がってきた。それらが連

私がかつてめいぎん生協の職員でした。生協を退職しないとやれない事業があって、そこでやりたい仕事があ
ったので生協を退職しました。そこへ所属しましたがそこを辞めざるを得なくなり、今はワーカーズコー
プセンター事業団に所属しています。センター事業団がなごやボランティアNPOセンターの指定管理事業
者になっていたのでもって働いていました。なごやボランティアNPOセンターは支援する仕事。指定管理
で期間が決まっていて、終了しましたが、現在は小牧市の第一老人福祉センターがありましてそこに所属し
ています。元気な高齢者の健康づくりや文化、娯楽を提供する施設で、こちらでも指定管理事業所で期間が決
まっています。この事業は4年間というところになっています。

ワーカーズコープって捉えにくいと思うのですが、経験をふまえて考えていることとして、次の3つが重要
だと思っています。良い仕事を実現する。働く人が主人公になる事業づくり、地域の人と協同する。ワーカー
ズコープの活動を通じて実現したい。

協同組合という消費、漁業……というテーマがある。生業ではなくて労働は人の話。労働の場、事業
所の中で労働を持ち寄り協同するのをイメージしていたんだけど、労働は場がないと……。事業所を
起こす仕事おこしの協同組合というところです。地域の中での困りごとや、新しい福祉社会の中でのテーマな
ど自分たちでやりますとか、要望を受けとめて志を持ったメンバーが起これし事業所を立ち上げる。それに加
えて、指定管理事業者として事業所を運営可能なところをやっています。しかし、立ち上げたて

用する人が減ってきた地域があり、私たちは専門職ではないので、利用する人も暮らしを応援していただくという事で普段の暮らしができるというスタンスですし、活動に入られる方も、活動に入れば住み慣れたところ暮らしの楽しみはいろいろあります。安心と判断される方が高いと判断される方で差が出てきているのが現状です。

2000円が運営費になりますが、これで会の運営はできないので、単協の組合員活動の一環という事で単協から支援を受けています。そういう中で、私たちが会を広めるという事で、お知らせ方法が問題となっていて、会の活動に関わったかただけが知っていることが現状です。いちばん残念なのは、単協の職員が知らないという現状です。組合員数は微々たるものでよっています。私は岐阜地区で関わっていますが、組合員数11万人いる中で、前年度233人しか関わっていません。コープぎふ全体では520人だけが関わっているという現状です。この会のお知らせ方法が課題としてあがっていますが、他の活動との連帯と書いてありますが・・・ほかの組合員活動と連携するということ事が上がっていますが、現状は広まっていない。個々にも広げようとしていますますがうまくいっていません。進める方法に苦慮していますが、会を利用されている方は、介護制度が4月からさびしい状況。子育て支援も、子育てしているおかあさんもなかなか手が回らないし、情報をキャッチできていない現状。私たちは生協よりも社協、地域包括センターがたすけあいの会を紹介してくれています。私たちが今一番問題としているのは、単協自体も応援金400万500万とな

帯して連合会だ。連合会直轄の固有の事業団を作った。それがワークスペースセンター事業に。それ以外に地域の協力者や高齢者協同組合がある。ICA大会が東京で開催された時に、ワークスペースはICAに加盟した。

いろいろな事業をやっている。入れ物のような感じで。

●伊藤さん：単協の中にある助け合いの会について、日頃悩まされています。

単協で福祉というんです、事業と活動に分けていますがこれは全くの組合員活動で、組合員が実質的に活動して行く中で起きている助け合いの会。その中で今の現状と課題があるというところでお話した。年度のすめたい事というには、会のある方、運営について考えましよう。会を広げたいことをすめましよう。又キルアップを心掛けて力をつけましよう。地域の諸団体とのつながりを広げたい・・・ということになります。又キルアップを心掛けて力をつけましよう。地域の諸団体とのつながりを広げたい・・・ということになります。又キルアップを心掛けて力をつけましよう。地域の諸団体とのつながりを広げたい・・・ということになります。又キルアップを心掛けて力をつけましよう。地域の諸団体とのつながりを広げたい・・・ということになります。

運営、利用料は・・・活動Aに対して、利用者さんから1時間10000円いただきます。Bはちょっとハードな活動で、利用料は20000円です。2009年9月から変更したんです。利用料をあげたことで、活動利

見合っている活動だと思えますが、伸び悩んでいるのが現状で。地域の中では、自分のペースを守っている人にはあってよかったと思える活動ですが、みんなでコーディネートしたり、会を運営するところについては自立できていないというのがみんなの悩みという現状です。

コープあいちにしても、利用したいという方に対して、支援をしましょうという方の数があまりにも少ないのが現状だと思います。お手元の事例（資料）を見て、たすけあいの会の活動がこんなことをやっているんだなという事を読んでいただいて、認知していただきたいと思えます。生協の内部活動なのでちょっと違うと思いますが、生協の中の組合員が支援する一つの組織としてあるというように認識していただきたいと思えます。

● 仲田さん：助け合いの活動はコープあいちでもあるんです？

● 伊藤さん：利用料は違います。以前は1時間750円だった。活動内容もAもBもひっくるめて。活動していたら方の手取りは650円。最初に決めたときの時給は世の時給に合っていたらいいんですが、利用者さんもうろんなところをあたって、一番値打ちをやってくれるのは生協だった。というのは、すいぶん問題が出てきて、100人の利用に対して当時活動会員は40人くらいしかいなかった。その40人が全部活

ります。たすけ合いの活動を知らない人から見ると多いのではないかとこの声も出て、このままではいけないという事も出てきています。

参考事例として応援事例が出ていますが・・・応援する中で、事例の中で、お断りしている事例もたくさんあるんです。会の中でのお約束事に従って、活動に入る方は専門職ではないのでお断りすることもあります。時間的な制限があって断ることも・・・活動に入っていた方へは、支援に入ることで断れるという事があってはいけないのです。今、自立したいと思っているのですが、コープから21万の組合員の中で、600人満たない会員数、存続できたらどうか。事業には手厚い保護があるが、入りましたけれども、会の活動に関わっているメンバーはボランティアな気持ちで、組合員活動の一環として、利用者が普般のメンバーとしていろいろな事を目的として進めている中で、もう少し組合員活動としてのポジションが求められる方法はないかという事が会の中で問題意識として持っています。組合員活動なので自主という事が前面に出てきていて、支援に入る方に対してのお約束事を守られているが、ほかの方法で義務的にたすけあいの会を支援する方法を明確にできると・・・そうすれば私たちは自主的に活動ができればいいのではないかと考えています。

1994年に会ができました。2000年に介護保険制度ができて、組合員活動と事業ポリシーというふうなところの生協も変わった中で、全国的な生協の中でのたすけあいの会の存続は、協同組合精神から言ったら全

● 中田さん：ご質問と感じたことを。
 ● 松浦さん：たすけあいの会の活動をしたこともあるのでわかるんですが、志縁組織なので、高い志を持ってみえるところがやっぱり要諦には応えられないところが出てきますよね。でも地縁、隣近所だよね、なんでもあり、わかった、わかった。やってあげる」となりますね。志縁と地縁の差をすごく感じました。

● 伊藤さん：確かに昔、向こう三軒両隣っていう感じであったんです。今、私たちが関わっている中ではそれが無い。そして今の若いお母さんたちのつながり方って、内藤さんはわかるんですけど。私は隣近所とは密なものであまりそういうことはないんですが、今現在関わっている中では、出産に関して、昔は実家出産、あるいは実家の親が手伝うというのがあったんですが今はないですね。ない中で子どもは育てたいというなかでの支援、こんなことを感じようなところでも、私たちが活動に入ってあげることで若いお母さんはほっとするという事があるんです。大きくなってからも利用したいという声がかかれます。それも春に多いんです。どうしてかという点、春は家庭訪問があるから・・・おうちを片つけてほしい。片付けたらこうはきれいなんです。そこへ先生をお迎えしたり。ちょっとわがままかなあと思うけれど、一年に一遍に褒めだと思っ利用料を出したら・・・。そういうことでほっとする感じがある。それと、私たちはこんな活動？と思えるようなことの支援をお願いされる方が多いんです。お年の方は季節季節でちゃんとしたという。

動に入れる状況ではないんです。コーディネートが入って10人くらいに電話して活動依頼をお話して活動を依頼するところになるわけですが、なかなか決まらない。問題はお手当がよくないということと、大手スパーの求人広告が入るたびに「やめます」という方が増える。そういう現状があって、今の活動の見直しとみなさんの手取りをよくするということになった。今私は岐阜地区に所属しているが、昨日も老夫婦の家の庭の草むきをした。88歳と84歳、4坪の庭。そこはヘルパーさんが入っていても今のケアプランでは手が付けられない。毎日気になってしまう。一カ所だけ手が付けられてあったが、お父さんの方がまいったしまった。依頼があったので(娘さんから)行った。結局、自分の両親のことだが最後の面倒を見るとか見ないとか相続の問題とか諸問題でややこしい。それと介護制度が変わったことで不便な暮らしを強いられている人たちの多いこと。関わっている人たちの支援を利用したいという声も4月以降多いです。在宅で暮らしてしまうという事ですが、在宅で暮らすことの支援はないです。いろんな場面でくらすことの大変さはとんとん出てきていますし、とんな暮らしができていくのかという事は、みんな考えていかななくてはいいけないところの一つ。それを支援することができぬのがたすけあいの会だと思えます。

・・・休憩・・・

すよね。老人でも。

ある利用者さんが、おじゃまして活動が始まりますね。いつもなら必ず空いているのに空いていない。どうしたのかと思ったら、その日活動する人が入ってその人に自分を言いつつに見せて疲れちゃって私が行く時間を忘れちゃって寝込んでしまったの。ピンポイントなら・・・それでも私の顔見るまで覚えてなかったの。新しい人を受けいれる能力、容量のある・・・そういうのが難しいですね。

内藤さんの「このように楽しんでくられても、あそこへ行く勇氣ね。

豊田さんの「このように、ほかのところでいいことあるんだけど・・・。あそこでみんなで手伝っているメンバーは門が開いた人だじゃないかと思う。みんないろいろ教えてくれてやっているから、普通の一般の人が豊田さんのところでやっていることを面白く思っても、そこへ行ってやる、声をかけるという事ができない人は多いと思う。この場面でもそうなのでしょうけど、一歩入っちゃった人はいけれど、入れないその他大勢がとても多いという事をどうかで見ながら・・・。気づいてはいるんですけど、気づいた人もどうやってやっとらいいかわからな。

●仲田さん：引きこもりも顕在化していないケースがきつとたくさんあるから、こういうネットワークを作っているんです。

●内藤さん：まだ一歩へ出てくれる人はいいよね。くらしたすけあいの会へ電話をかけるとか。うちは普通の家なんです、門があつて。門を開けて一歩入る勇氣、普通の家のドアを開けて中へ入っていく勇氣・・・。初めての人は、それでも入ってきてくれた人は。1回目はお金を取らなくなったの。なぜかというと、去年のデータを見たら、1回目にお金を600円もらうんです。3000円は1年間の保険料、3000円は何回来てもいいよってことで、でも6000円が重すぎるという人がいて・・・、2回目きた人は何となく利用してくれているんです。1回目には「今日は遊んでいきなさいよ」とって次に来た時に登録してもらおうんですけど。

地縁ってことば言うって、高等歴のお母さんって、会社ではバリバリのキャリアワーマンで、男の人以上に仕事をしてきた人が、出産したとたんに仕事にも出られない。今まで家にいたことがない人が家にいることを強制されて、40歳になって初めて赤ちゃんをさわるのは大変だと思えます。そういうお母さんが増えてきて、「この先私はどうなっちゃうんだろ」と・・・。「若いお母さんはそういうことを考えないのでおせっかいが高いんだけど、その四十年代のお母さんはおせっかいやったらとんでもないことになっちゃう。プライド

●伊藤さん：一歩中に入る、たすけあいの会でも。何とかして言える人はいい。若い方はかりじゃないで

自分が閉経したと思ったら妊娠していて・・・、実際あるんです。経験がないから、妊娠した人を見たことがないから。五十歳だからないわよと思ったり、おなかに赤ちゃんがいてどうしたらいいかってうちへ来た方があったんですが。そうしたらそこはお父さんが家庭内暴力、子どもができたことで。だけとその五十代の人のうちへ来たことによって保育園に行くことができたし、夫のことも相談窓口にも行くことができた。そういうことが多くなるフットホーム親支援でなくては人間支援なのか、たぶんその人は子どもができて、家で子育てしてきていて子育ての期待が起きている・・・。

●仲田さん：難しい質問を4人にします。

●史文珍さん：日本へきて5年になりますが、日本社会の仕組みがわからないんです。今日は勉強になりますが、わからないことがいっぱいあります。質問は、実は中国では近所の人の付き合い方は日本とは違うかもしれません。やはり引きこもりはないかもしれませんが。農村と都市では違いますが、まちでは朝は太極拳をしています。これで誰が今日はお出でこないとか・・・。夜は散歩とか公園に集まっている話をしています。交流の場がありますが、日本では交流をあまりしていないです。これは価値観や文化が違うところだと思います。一歩出すことは難しいとか勇気だとかはどう改善すればいいですかね。

●豊田さん：なかなか情報がいきこえない中でホットラインも作っていて。でも、一歩踏み出すというのは大変勇気がいるので、訪問する活動も必要・・・いろいろなところあります。うむむむは無料で開放しているんですが、とにかく一歩踏み出すところなんです。それでも大変なのかな。今回も近くまで来てもらえない、親は来るけど。何回も来ては戻って、繰り返すから。もう5年くらい来ている人もいるけど最初は来てすぐ帰って、だんだんと増えて・・・。時間がかかると。

●内藤さん：反対に、うちの子育て広場は卒業があるんです。床のある空間にいられるのは1歳半から2歳まで。3歳になると公園で遊ぶから出て行っちゃう。夏場で困るのは、お兄ちゃんを連れてきた子は中々という事に。待つていられない。短期集。

二か月から二歳までに一回でもこういうところに来た人は、それから先何かあった時に手を出せる。くらいつたすけあいの会に電話をしたりしたとか・・・。もし子供が二歳になったらどうやって探すとか・・・。始めの一步を誰かが後押ししてあげないと、そのお母さんは一生自分の中に家族を抱え込んでいくんじゃないかと考えるので。二歳までの親支援人間支援というのは、赤ちゃんはゼロ歳だけど、親は十代から・・・。最高の人は・・・七か月で妊娠が分かった人。

●伊藤さん：モーニングの習慣は聞いたところによると、みなさんお仕事が忙しくて、高度経済成長に見合うように働かなければいけない。そうすると、朝自分の家で作るよりは行って食べて、お昼まではOKというのが・・・。一言もせうで、一言は繊維のまちで、働き方ははんばじゃない。だからそれぞれの社会状況に見合っている。

孔子は、今若い人たちがこれって聞いたことないよね。勉強したいよねっていう人たちが、親が触れなかった人たちが読んでいる。自分のくらしの中になかった。新鮮な気持ちになれる。

●仲田さん：中国も日本も少子高齢化は共通している。人口の規模が違いますが、共通する社会的なテーマになると思いますので、今後もしこいつ機会が持てるよう考えていただけるといいですね。前田さんお願いします。

小木曾先生がお見えになっていたらここはどう考えているのかという事について。レジュメの二番下。

4人の方にお答えいただきたいことは、直面している社会的な願い要望については実践的にみんな応えている。4人の報告の中で、欠陥を支えるだけでなく社会その物を変えていくという、社会的使命があるんじゃないですか。それが社会的貢献という事かと思いますが、社会的貢献に関わって一言ずつお願いします。

今私は地域包括システムを勉強していますが、孔子の思想を勉強して・・・住民と住民の付き合い方では信頼感は重要だと思っています。礼儀だとか、仁、今こういうことについて地域包括システムに應用したりという

事を研究したい。東洋の思想だとか。

日本では孔子の本はたくさんあります。本屋へ行ったらたくさんあります。中国より多いです。今、少子高齢化社会ですので、孔子の思想を読み直しの必要があるかなと思うので、住民の助け合いの会だとかでは重要ななあと思います。

●仲田さん：佛教や江戸後期の朱子学から、流れは引いているはずなんです。高度経済成長から様変わりして共同体の価値観がなくなってきたりしてしまっている、日本の場合。日本人との話では出てこない視点なのでいいなと思いました。

●向井さん：今回大震災があって、東北から愛知に来た人が・・・愛知の人は朝、喫茶店に集まって年寄がモーニングサービスを食べながらおしゃべりしている、あの経験は東北にはない。愛知の人たちは大変コミュニケーションが取れている・・・そういう感想を多くいただいた。愛知のモーニングコーヒーはキーキが出てきたり・・・、朝は家でご飯を作らずにモーニングコーヒーを楽しみにして集まるお年よが多い。

いかという事でメダカを飼ったんです。赤ちゃんメダカ。赤ちゃんメダカを見たことがない人が・・・そのことをやることによって、支えている人さんという関係がどこかあったと思うんですが、それがフラットな関係になって・・・メダカを媒介に同じ場所を共有するような関係に・・・。玄関にメダカがいるから小さな子が来たりするよつに。

一緒にやりだして・・・。絵本の日に書いてあるんだけど・・・、だるまちゃんという本が今一番売れているよつという話をして・・・。そのするところの世界から日常のテレビの話題や、社会参加の場にならなくなっていく場になっていく。

お母さんが普通の人としてしゃべれる空間に作る事が、社会そのものを変えていくことになっていく場になっていきたい。

●津坂さん：実はパンフレットに「社会の歴史的大変革期の協同組合運動・・・」と書いてあって。これはまごめてあって、「一つ一つはやぶくさいことをやっているんですね。今日話されたことをワーカースクールというキーで括っていて、動きのあり様が協同労働の協同組合だと、あらためて思った。

儒教の話がありましたが、我々の社会ではモルモットのような扱いになっているのではないかと。ジャパナイ

●豊田さん：今年引きこもりの全国集会は今年は神戸でやったんですが、韓国からゲストに来て、そこでの報告。韓国は日本以上に教育が競争社会で。「無重労働年」という表現を使っていた。いい表現だと思った。二つ引きこもりのこと言葉が合わないような気がして、何かいい言葉がないかと思っていて、ある。

今やっていると、思っているのは、いろんなことが関わって、日本の社会は大変な時期に来ていると感じている。高齢化社会も含めて、若い人が夢が持てない、とらうのを引き合っていて思う。僕が二十歳の頃は遊びまわっていたけど、今の人はだいたいまじめな仕事をしていて、遊びまわっているのは少ない。文化とか離れて・・・ちょっと怖いなという印象がある。まっとうな底辺を支えるところを作っているか、とんでもないところの状況が起きています。だから、真剣にみんなが手を組まないと・・・、組める時代なんでしょうね。共通の目的があることを、そこを組んでいかなければいけないと思う。

●内藤さん：これを始めて、去年は人が来ない時期だった。最初の年は行政がバックアップしてくれてよかった。2年目は来なくて、今年になって行政がつながりだして、役所の人々が家に引きこもっているお母さんがいらして入行くといいなという事で、困った人はかりが来るようになって・・・、何か和めるものはな

● 中田さん：事務局の方で感想などありましたらどうせ。

● 井貝さん：NPOで喫茶店をやっていた時、友人の引きこもりの奥さんが手伝ってくれて、3年間は動いてくれた。人格が変わって今は普通の喫茶店に営業に行くくらいになって、以前では考えられないくらい。人間は変わるんだと思った。私が声をかけたことで人間が変わったので、声をかけることは大事だということも思っています。

● 鈴木さん：午前中の話でもそもそもある地縁組織は歴史はそれぞれにあると思いますが、日本の今の状況では地域ごとに違う。不足分を補うために志援組織、半分以上はボランティアでやっている状況がなご。そういう中でネットワークづくりも一つのキーになると感じました。

● 中田さん：座談会のおこのころは向井さんに補っていたたくとして、今日は前田さん、史文珍さん、福祉パネルでは新鮮な視点、問題提起、視点が聞けて良かったと思います。私自身視野が広がって。こういう場いろいろな視点をもった新しい方が参加されるという事は、一つのテーマであればあるほど大事だなあと実感しました。本当にありがとうございました。私自身は小木曾先生の設問との関係でいうと、社会の欠陥

セッションみたいなことをよく言われていて、今、高齢化社会が続いて、経済成長の問題があって、矛盾の象徴的な存在が日本といわれる。ソニーの創業者の森田さんや井深さんは「自分たちはモルモットみたいに実験台になって、とんだんちやうていこうじゃないか。マインスの意味ではなくて、ある意味日本は最先端。世界が見守っている。そういう気持ちでやるといふことが大切ではないか。私たちのところでいうと労働がキーになるので。就労しないと生きていけませんので、継続していくことが重要だ。とらうみうなていという根本的な課題。やっつてくることは、社会そのものを変えていくための一つの鍵になると思う。

● 伊藤さん：たすけあいの会のやっていることは社会的貢献のその一つかなと納得できますが、もう少し認知度を上げたい。コープぎふの中で抱えているのは、社会的貢献を目指す人がたすけあいの会に関わってらるんじゃないかと思えるのに、あまりにもたすけあいの会に関わる人が少ない。逆に言うとなぜえられないという事になるの？・・・単協の中で関わって下さる人を増やすという努力をこついたらよいかかわらないか。ネックになっているのは、事業ではないところのこと。事業に対して単協は目を明かして入るけど、活動に対して眼あきが少ない。いや、コープ社会的貢献からはずれているんじゃないかと思う。

今回のお話の中で、いろいろ聞いてきたら、自分の地域社会というのは言っている場所。その地域の中に自分の存在があるという事を見せる、見つけられるという事が社会的貢献だと思えます。

決するときに、今、志望しの組織がうまく活動できているかということになれば・・・内藤さんの話にあるような・・・。その中で今求められているのは支援する関係よりも、支援を受ける力を引き出す力。フラットになるのか、情報をアクセスできる環境を作らなきゃいけないということになる。それぞれの支持の大変さがあるようなので。地縁組織と志縁組織の関係と同じように、まさに志を共有する、気持ちを共有するという関係が成立して初めて、志縁組織の支援組織らしいアクティブな協働性が発揮できる。そういう環境を日々見て・・・。従来の地域福祉を支えているような、日本社会全体の行政システムや経済システムの下にあった、雇用関係の下に正規就労と家庭内の生活があり、その生活に支えられた社会保障と地域福祉と企業福祉の体系の中で支えができた20年前の日本社会の仕組みが崩れてきているので・・・。

今、同じように、その中で一人の困難さも登場してきているわけですか。

地域福祉を支える市民協同のころからそのものを、10年間の大きな変化や今直面している変化に応じて、柔軟に読み直さなければいけないというのが、今日の午前中のもとと午後の話し合いの中で出てきたんだと思います。しかも中国も韓国もですが、社会が急速な経済成長や少子高齢化しているので。文化的歴史的な人と人とのつながりを一方で大事にしながら、その社会が直面している問題との関係でも、社会システムが作られると捉えても、今私たちがいる状況を見直すことが大事という話ができたとと思います。

次回はおう一度、協同を支える条件、協同や組織のアクセスを可能にしている人と人との関係が一体どうなを支える活動の中に、格差社会を変えたい大きなエネルギーがあるんじゃないかという確信を持っていますので、もう少し発展させていきたいと思っています。4人のみなさんありがとうございます。

●阿井さん：午前中話した地縁や地縁組織だから、そこにある課題をお互いがどう見ていてどう見つけて解決しているか。それらをキャッチするキーワードがあり、コーディネータ的に能動的に解決する方法や解決できる人たちをつなげることができる。そういうバックボーンがあるという事で、地縁組織がどう生き生きと変わっていくかというような話合いが午前中になれました。

午後は、自分たちで組織を作って、NPOや社会福祉法人の臨時職員という立場を生かしながら、自分の家を活用して事業を立ち上げていたり、ワークショップという労働そのものを主体的に進めていくという場で考えていく。そして、さっき話したすけあいの会の活動は生協の中でより良い商品を利用する活動とは違って、お互いのへらしを直接支援し合う生協の原点的な活動であり、どんなに商品利用が広がってもたすけあいの会のような活動がある限り、協同組合の支えの文化があり、生協とは・・・という事を問い直すことがいい。

実践を常に広げている場です。で、それぞれキャッチされた話が聞かれて密度の濃い話だった。

いろいろな課題をキャッチするのはなかなか難しいですね。問題課題は身近にある。海、いろいろな課題を解

しているのかについて、丁寧な話し合いをしたうえで、協同組合の役割は一体どうなっているかの1回目の座談会をやってみたい。1回で議論を終わらせない。

協同組合は人と人の結合としてその側面があり、一方で事業を継続している側面がありますから、協同組合という場合には丁寧に見ておかなければいけないですね。組合員経験のある人がキーパーソンになっていることは間違いないわけで、そこで登場する人がいる協同組合の役割、問題解決できる場としての協同組合の役割は大きいと思いますが。そういう側面から、一回、二回の座談会を既存の協同組合の経験や存在がどんなふうに役に立っているかをおおまかには議論してみてもいいので、そのうえで、今ある協同組合は消費事業もあれば介護事業もあり、地域福祉そのものにも参加していますので、協同組合が実践している領域に光をあてつつ、本格的に最終的に、地域福祉を支える市民協同組合のポジションを定めて議論していただくというふうなことを目指したいと思います。

次の日程・・・十月二十六日(金)午後一時三十分～四時

生協生活文化会館4階ホール

次回：振り返りと広い視野で

2012年10月26日発行

NO.1

2012年8月30日

地域福祉を支える市民協同パネル・世話人会

第1回座談会の振り返り

地縁組織から

第2回座談会

志縁組織から

発行：地域福祉を支える市民協同パネル

〒464-0824名古屋市中種区稲舟通り1-39 地域と協同の研究センター

TEL:052-781-8280